

[シカと共存するための技術開発]

シカの誘引方法等の検討

～誘引に利用可能な飼料資源の選定～

田村哲生・寺崎敏明・中村健一*・奈良雅代*

(畜産技術科・*緑化森林科)

【要 約】 シカを誘引捕獲する際に適切な飼料資源を明らかにする。カフェテリア方式によりシカにおける嗜好性を比較すると、乳牛用配合飼料が最も高く、次いでアルファルファあるいはコナラ苗葉となる。

【目 的】

シカ被害を低減する一手段として、シカを誘引および捕獲することが挙げられる。しかし、誘引効果の高い物質の順位については知られていない。本研究では、入手が容易な飼料など(飼料資源)の摂取量を嗜好性として比較し、誘引効果の高いものを明らかにする。

【方 法】

青梅庁舎で飼育しているシカ2頭(メス1頭, オス1頭)に対してカフェテリア方式により飼料資源の摂取量を比較する。扉を開放した飼育ケージ2基に飼料資源をそれぞれ設置し、規定時間における摂取量を3日間測定する(図1)。同一飼料資源を3日間連続で同一ケージに設置しないようにする。摂取量の多い飼料を嗜好性が高いと判断する。飼料資源、飼料設置時間および飼料設置量は、様々な飼料を予め給与し、飼料摂取行動を示さなくなる時間およびその量を測定して決定する。飼料資源として配合飼料を用いる際は、多量給餌すると健康を害する恐れがあることを考慮して設置量および設置時間を確定する。

【成果の概要】

1. 予備試験で以下3飼料を摂取することから、これらを飼料資源とする;チモシー乾草(チモシー;切断長5cmにカット), クラッシュアルファルファヘイキューブ(アルファルファ), 乳牛用配合飼料(配合飼料;「くみあい配合飼料バリューミックス」, JA東日本組合飼料社製)。また, 平成21年度試験で嗜好性が高いコナラ苗も飼料資源とする。
2. チモシーおよびアルファルファを2kgずつ設置し, 2時間における摂取量を測定する。アルファルファの摂取量が有意に多いことから(図2; $P < 0.05$), チモシーに比較してアルファルファの嗜好性は高い。
3. アルファルファおよび配合飼料を300gずつ設置し, 10分間における摂取量を測定する。配合飼料の摂取量が有意に多いことから(図3; $P < 0.01$), アルファルファに比較して配合飼料の嗜好性は高い。
4. 配合飼料300gおよびコナラ苗4本(平均葉重量16g/本)を設置し, 10分間における摂取量を測定する。配合飼料の摂取量が有意に多いことから(図4; $P < 0.01$), コナラに比較して配合飼料の嗜好性は高い。また, アルファルファ300gおよびコナラ苗4本を設置し, 10分間における摂取量を測定する。両飼料資源の摂取量に有意差は認められないことから(図5; $P > 0.10$), 両飼料資源の嗜好性は同程度である。
5. まとめ: 本試験の結果から, シカの嗜好性は, 配合飼料が最も高く, 次いでアルファルファあるいはコナラ苗葉であり, チモシーの嗜好性は最も低い。



図1 アルファアルファおよび配合飼料の摂取量の測定試験風景

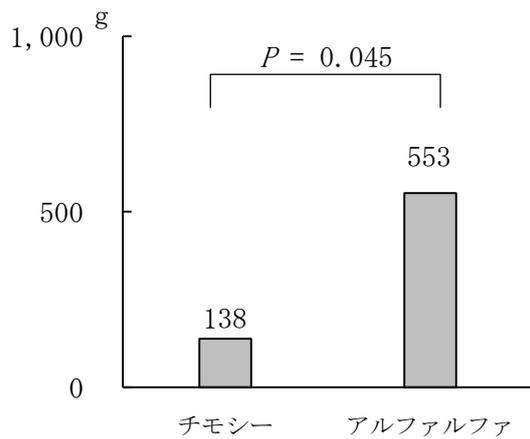


図2 チモシーおよびアルファアルファの摂取量(g)

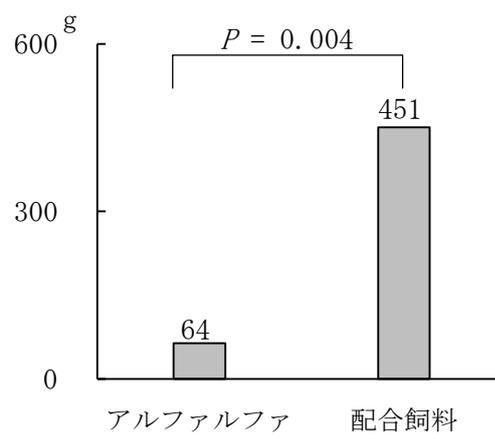


図3 アルファアルファおよび配合飼料の摂取量(g)

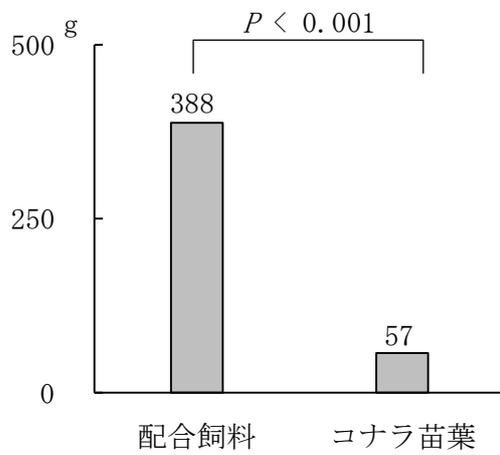


図4 配合飼料およびコナラ苗葉の摂取量(g)

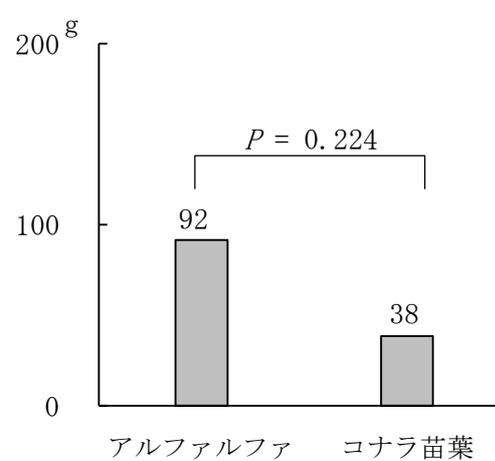


図5 アルファアルファおよびコナラ苗葉の摂取量(g)